

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 敦井美術館【新潟・中央区】(<https://www.tsurui.co.jp/museum/exhibition/>)

10月7日(月)～12月14日(土)

企画展： 富本憲吉から今右衛門まで 人間国宝の陶芸展

人間国宝とは、文化芸術の分野において優れた技術「わざ」を持つ者に与えられる重要無形文化財保持者の通称です。本展では富本憲吉、荒川豊蔵、新潟出身の伊藤赤水、酒井田柿右衛門、今泉今右衛門ら人間国宝の名品約50点を展示します。



2. 東京国立博物館【東京・台東区】

(https://www.tnm.jp/modules/r_free_page/index.php?id=2676)

10月22日(火)～12月1日(日)

企画展： やきものを彩る金と銀

やきものの絵付けに華を添える金彩と銀彩。いまや現代陶芸でも人気の絵付け表現ですが、銀彩は空気中の水分と硫化水素に反応(硫化)して黒く変色してしまう性質があり、かつての中国景德鎮窯やそれに影響を受けたヨーロッパ諸窯の磁器にはほとんど用いられることはありませんでした。しかし日本には、九州有田と京都において上絵付けの色絵が完成した17世紀後葉以降、磁器・陶器にかかわらず素地の特徴を活かしながら、金彩だけでなく銀彩も積極的にとり入れてきた歴史があります。本展では、世界に先駆けて製陶を行なった中国や、酸化銅や酸化銀を呈色剤に用いて器面を金属的に輝かせるラスタース彩を採用したイスラームの作例、さらに17世紀以降金銀彩の表現をさまざまに工夫しつづけてきた日本のやきものの作例を紹介いたします。金銀彩を通して、あらためて日本のやきもの文化の豊かさと独自性を感じることができるでしょう。



3. 出光美術館【東京・千代田区】(<https://idemitsu-museum.or.jp/exhibition/schedule/>)

11月2日(土)～12月25日(水)

企画展： 日本・トルコ外交関係樹立100周年記念

トプカプ宮殿博物館・出光美術館所蔵 名宝の競演

日本とトルコ共和国が外交関係を樹立して100周年を迎えた本年、両国の友好を記念した特別展を開催します。駐日トルコ共和国大使館、トルコ共和国大統領府宮殿局およびトルコ共和国文化観光省の全面協力のもと、トプカプ宮殿博物館ならびにトルコ・イスラーム美術博物館から金銀や宝石で彩られた宝物、さらには中国陶磁などの至宝が集結。出光美術館からはトプカプ宮殿博物館の中国・日本陶磁と類似する作品をはじめ、当館が誇る中国・日本陶磁の名品や華やかなトルコ陶器を厳選します。世界の人々を魅了してきた名宝の競演にどうぞご期待ください。



4. 多治見市美濃ミュージアム【岐阜・多治見】 (https://www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/archives/6334)

10月12日(土)～2025年2月24日(月・祝)

荒川豊蔵生誕130年ならびに第14回国際陶磁器フェスティバル美濃'24の関連事業
令和6年度 多治見市美濃焼ミュージアム企画展 「荒川豊蔵から始まる現代の志野」展

本年度に国際陶磁器フェスティバル美濃'24の開催と岐阜県現代陶芸美術館で開催される生誕130年 荒川豊蔵展に関連して開催される展覧会です。今年が荒川豊蔵生誕130周年の年にあたります。荒川豊蔵は「志野」に魅了され志野再現に取り組んだ事で、この美濃の地で志野をはじめとする桃山陶が焼かれたことを世に知らしめ、大きく光をあてることとなりました。そのことは美濃陶芸文化を現在に至るまで発展させ、新たな展開を促しました。そして周知のとおり国指定重要無形文化財保持者の鈴木藏氏や故加藤孝造氏をはじめ、多くの作家を輩出することとなりました。

本展は荒川豊蔵から始まり今もなお続く「志野」の造形について本館収蔵作品を中心に俯瞰してみようとする展覧会です。美濃を代表する「志野」のこれまでとこれからを考える機会になれば幸いです。

荒川豊蔵生誕130周年ならびに第14回国際陶磁器フェスティバル美濃'24関連事業

企画展

荒川豊蔵から始まる現代の志野

志野再現 荒川豊蔵
荒川豊蔵の志野再現は、桃山陶が美濃で焼かれたことを世に知らしめ、鈴木藏氏、故加藤孝造氏等多くの作家を輩出することとなりました。豊蔵から現在に至る「志野」の造形を、本館収蔵作品を中心に紹介します。

2024年 10月12日(土) - 2025年 2月24日(月祝)
多治見市美濃焼ミュージアム ギャラリーS3

【開催時間】：9:00～17:00(入館は16:30まで)
【休館日】：月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始(12/28～1/3)
【観覧料】：一般320円(260円)、大学生210円(150円)
※()内は団体料金(20名様以上)
※高校生以下は無料
※身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の交付を受けている方とその同伴の方1名は無料

〒507-0801 岐阜県多治見市東町1-9-27
TEL: 0572-23-1191 FAX: 0572-23-4538

多治見市美濃焼ミュージアム
TAJIMI CITY MINOYAKI MUSEUM

5. 大阪市立東洋陶磁美術館【大阪・北区】 (<https://www.moco.or.jp/exhibition/schedule/?e=607>)

10月19日(土)～2025年3月30日(日)

大阪市・上海市友好都市提携50周年記念

特別展「中国陶磁・至宝の競艶—上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」

大阪・上海市友好都市提携50周年記念
Resonating Treasures of Chinese Ceramics
Shanghai Museum × The Museum of Oriental Ceramics, Osaka
10.19(土) - 3.30(日)

特別展
中国陶磁・至宝の競艶

上海博物館 / 大阪市立東洋陶磁美術館

大阪市立東洋陶磁美術館
〒540-0002 大阪府北区東天満1-1-1
TEL: 06-6362-1111 FAX: 06-6362-1112

2024年は大阪市と上海市の友好都市提携50周年にあたり、これを記念して大阪市立東洋陶磁美術館では上海博物館との主催による特別展「中国陶磁・至宝の競艶—上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」を開催します。1952年に開館した上海博物館は、中国を代表する世界的な博物館の一つとして知られ、青銅器、陶磁器、絵画、書、彫刻、玉器、貨幣など中国文物の宝庫です。なかでも陶磁器コレクションはその白眉です。大阪市立東洋陶磁美術館は、これまで展覧会協力や学术交流を通じて上海博物館との交流を積み重ね、友好を深めてきました。今回、両市の友好の節目を記念し、上海博物館から日本初公開作品22件(うち海外初公開19件)を含む計50件の中国陶磁の名品が出品されます。中国陶磁の世界的な殿堂である上海博物館と大阪市立東洋陶磁美術館の至高のコレクションが一堂に会し、「競艶(きょうえん)」する本展を通して、悠久の歴史を誇る中国陶磁の真髄に触れるとともに、現在においても斬新さや新たな美の発見をもたらすその魅力に迫る機会となれば幸いです。